

滋賀県立大学人間看護学部 地域交流看護実践研究センター

活動報告書

2024 年度

ごあいさつ

地域交流看護実践研究センターは、開設 20 年目を迎えました。これまでの皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。2024 年は、新型コロナウイルス感染拡大から日常を取り戻す節目の年となりました。しかし、その一方で、滋賀県における医療人材の不足という深刻な課題があり、地域の看護実践を支える新たな取り組みが求められています。

本センターでは、看護実践の向上を目指し、教育・研究の両面から地域貢献を進めてまいりました。公開講義や専門講座の拡充を通じ、大学の知を社会へと発信する機会は確実に増えてきています。一定の成果を上げることができた一方で、センターの知名度は依然として低く、地域社会とのさらなる連携が不可欠であることが明らかになりました。滋賀県の看護人材の現状を考えると、大学はこれまで以上に地域に積極的に関わり、臨床現場との交流を一層深める必要があります。

また、ICT の進展により、看護教育や情報発信の手段は多様化しました。しかし、本センターにおけるオンデマンド配信を含む ICT 活用は、未だ発展途上の段階にあります。地域の看護職や医療従事者が、場所や時間の制約を超えて学び続けられる環境を整えることは、今後の重要な課題の一つです。

こうした現状を踏まえ、本センターは「地域とともにある看護教育・実践・研究の推進」をより強く意識し、次年度以降もさらなる発展を目指してまいります。大学の枠を超え、地域に開かれた学びの場を拡充し、地域のみなさまとの交流を深めることで、看護人材の育成に貢献していく所存です。

今後とも、地域の皆様、医療機関、そして教育・研究機関の皆様と力を合わせ、看護の未来をともに創造していきたいと考えております。本センターの取り組みに対し、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

滋賀県立大学人間看護学部
地域交流看護実践研究センター
センター長
本田 可奈子

目次

ごあいさつ

I. 2024 年度(令和 6 年度)の活動	…	P1
II. 各部門の活動報告		
研究部門	…	P2
研修部門	…	P4
情報部門	…	P8
III. 看護キャリア形成支援室の活動報告	…	P9

II. 2024 年度(令和 6 年度)の活動

	研究部門	研修部門	情報部門	
4 月	・共同研究審査会(継続)		・ホームページ更新	・第1回専門委員会
5 月	・共同研究新規募集 ・看護協会共同事業受入 ・研究相談、文献検索		・ホームページ更新 ・事業案内を関係機関に発送	・運営協議会委員委嘱 ・第2回専門委員会
6 月	・研究相談、文献検索 ・看護研究学習会開催 ・看護協会査読受入	・専門講座開催 ・公開講義開催	・ホームページ更新	・運営協議会開催 ・第3回専門委員会
7 月	・研究相談 ・看護研究学習会開催	・専門講座開催 ・公開講義開催	・ホームページ更新	・第4回専門委員会
8 月	・研究相談 ・看護協会査読受入	・公開講義開催	・ホームページ更新	
9 月	・研究相談・SPSS		・ホームページ更新	
10 月	・研究相談	・講演会開催	・ホームページ更新	・キャリア形成支援交流集会開催 ・第5回専門委員会
11 月	・研究相談、文献検索		・ホームページ更新	
12 月			・ホームページ更新	・キャリア形成支援講演交流会開催 ・第6回専門委員会
1 月	・文献検索	・公開講義開催	・ホームページ更新	・第7回専門委員会
2 月	・研究相談、文献検索 ・看護協会共同事業完了報告		・2025年度版リーフレット作成 ・2024年度活動報告書作成	・第8回専門委員会
3 月	・研究相談、文献検索	・専門講座開催	・ホームページ更新	・第9回専門委員会

Ⅲ. 各部門の活動報告

A. 研究部門

1. 委員：久保美紀教授、小林孝子准教授

2. 活動の概要

1) 共同研究（7件：継続5件、新規2件）

昨年度から継続の共同研究5件の研究費助成について、共同研究審査会での審査を経て承認した。また、新規の共同研究2件の採択について、共同研究審査会の審査を経て承認を行った。

申請内容に関して差し戻しや再審査が多いことから、申請書の様式を検討した。申請内容が明確になり、記載しやすいフォームに修正し、新たな様式を作成した。

2) 研究相談（27件：対面13件、メール/オンライン3件、メール11件）、文献検索（8人）

研究相談の総数は27件であった。そのうち、対面での研究相談が13件、オンライン3件、メール11件であった。文献検索の利用人数は8人であった。

3) 看護研究学習会（6/19：36名 6/26：20名）

滋賀県看護協会より委託を受け、看護研究学習会（2024年度看護研究スキルアップ研修Ⅰ・Ⅱ）を2日間の日程で開催した。

研修では受講者の自己教育能力、研究能力の向上を目指し、1日目に看護研究の意義、日ごろの臨床実践において生じた疑問を看護研究へと発展させるための方法について概説した後に、文献検索方法の習得、論文クリティーク、研究テーマの絞り方について講義と演習を用いて行った。2日目は、量的・質的研究論文のクリティークについて講義とグループワークにより実施した。

研修受講後のアンケートでは、両日ともに受講者の約9割が研修内容について「とても理解できた～理解できた」と回答し、自由記述においても研究実施の意欲に繋がった等の意見が散見された。以上から、本研修の目的は概ね達成されたと評価する。

4. 次年度にむけて

共同研究については、新年度予算の決定を受けて速やかに申請者を募集し、地域の課題解決に向けて大学と地域とが連携し研究を進めるための活動を支援したい。そこで、共同研究申請書の従来書式を見直し、申請内容がより明確に、より具体的に記載できるような書式に改訂した。従って、次年度は新規書式を用いた初めての募集となるため、書式改訂の評価（運用のしやすさ、申請内容の質的向上など）を行い、今後のより良い運営に向けた一助とした。

研究相談については、毎月の研究相談の件数、内容を見ながら引き続き、研究相談利用者の希望に沿えるよう環境を整えていきたい。

看護研究学習会については、次年度も今年度と同様の内容で2日間の実施が委託されている（7/16、23）。一方、講義を担当する教員から「複数年講義を担当しており負担が大きい」との意見があった。そこで、次年度は担当者を一新し、新体制（各講座から1名選出、博士の学位を有する教員）で臨む。従って、円滑な研修会の運営に向けた委員会の体制づくりが課題である。

B. 研修部門

1. 委員：千葉陽子教授

2. 活動の概要

1) 講演会 滋賀の医療の現状と課題

—滋賀の2025年問題から2040年問題に「看護」はどう関わるか—

(2024/10/26 49名)

滋賀県健康医療福祉部次長の切手俊弘先生を講師としてお招きし、講演会を開催した。滋賀の医療を担う看護職が今後も看護を通して地域に貢献していくために、滋賀県の地域医療構想の概要、医療の現状と課題、第8次保健医療計画とそこでの滋賀の取り組みなどについてお話いただき、2040年問題を見据えて看護職にできる事を考える機会となった。

参加者のほとんどが看護職で、所属は医療機関、教育機関、行政機関と多様であり、様々な立場から滋賀県の医療の現状を実感しつつ聴講されていた。アンケート結果をみると、講演内容に対して「非常に満足した」「ほぼ満足した」という回答が多く、具体的感想には「医療者として自病院だけでなく、地域全体を考える大切さを認識した」「少子化の中、看護学生をどう確保するのか、県外への流出へどう対応するのか、という話が興味深かった」「看護師の離職率を減らすための職場の労働環境の改善や取り組み、潜在看護師の再雇用も重要」などの記載があった。講演内容を今後「非常に活用できる」「まあまあ活用できる」という回答がほとんどを占めており、有意義な学びを得られた。

2) 専門講座

3件 6講座

① セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツと性の多様性

—医療専門職に求められる役割を考える—

(2024/6/19：7名、7/3：11名)

6月19日は「性に関する教育支援の実際」について、思春期保健指導士の脇野千恵氏による講義を専門講座として開講した。学校における性に関する教育支援の現状と課題より、助産師としての役割を再認識できたことや学校が果たすべき役割、地域や専門職が果たすべき役割についてセッションすることができた。

7月3日は「DSDs（性分化疾患）と性の多様性」について、臨床心理士のヨヘイル氏による講義を聴講した。聴講者からは「DSDsについて、知らなかったことが多く、生まれて即座に性別を伝える助産師として、知っておかなければならない知識であると実感した。講義で当事者の方から話を聞き、正しい認識を持つことができよかったなどの感想が聞かれた。

② 周産期の包括的支援に必要な連携・支援活動の実際

(2024/7/1：10名、7/10：10名、7/17：8名)

7月1日は「滋賀県の排尿支援に関する取り組み」について、保健師の久保亜紀氏による講義を専門講座として開講した。加齢とともに増加する尿漏れなどの排尿障害への対処、予防的取り組みについて、演習も取り入れた講演であった。

7月10日は、「地域で展開する産前産後ケア」について、開業助産師の寺本聖子氏による講演であった。開業助産師としての活動とさらには、訪問看護ステーションにおける医療的ケア児親子の育児支援などについて、地域活動の中から助産師の役割について、参加者と共にセッションすることができた。

7月17日は、「特別養子縁組支援の実践と助産師の役割」について、病院勤務助産師の堀内遥子氏による講演であった。特別養子縁組を決めた生みの親、育ての親、それぞれの支援について、法の解釈をふまえ、助産師としてのケアのあり方について、講師、参加者ともども考察を深めることのできる講義であった。講義終了後のセッションでは、社会的養護のもと子どものみならず、親支援のあり方について活発な討論を行うことができた。

③ 看護におけるシミュレーション教育の実際

(2024/3/14 40名)

本学部のシミュレーション教育は、学生が専門職としての看護実践能力を培うことができるよう各領域で様々な工夫をされ実践されている。

今年度で3回目となったシミュレーション教育に関するFD研修であったが、公衆衛生看護学領域からは「新生児訪問のロールプレイ教育」について、精神看護学領域からは「演習におけるシミュレーション教育の導入」について、成熟看護学講座からは、「健康危機回復支援演習Ⅰと在宅療養移行支援演習で取り組んでいる共同事例（電子カルテ）を活用した在宅復帰支援に関する学生の学び」について講義をしていただいた。

さらに、グループワークとして「演習におけるシミュレーション教育の領域間における連携について」「実習につながる効果的なシミュレーション教育について」「シミュレーション教育における大学と地域（臨床）の連携について」の3つのテーマについて意見を出し合った。それにより、本学部のシミュレーション教育の現状を知り、今後の本学部におけるシミュレーション教育の方向性についても見出すことができた研修であった。

また、本講座は学外の方にも参加していただき、ご意見ご感想をいただく事ができ、学内・学外双方の参加者にとって今後の教育・研究活動に生かすことができる有意義な学びを得る機会となった。参加者数：40名（専門講座受講者6名・学内教職員34名）

④ 児童・生徒が自分自身を傷付けることにどう寄り添うか
(2025/3/15 第2部 23名)

巳波紗希子講師（野洲市教育委員会）より、近年の児童・生徒における自傷行為の動向や、ご自身が経験された対応事例とそのときの対応などについてご講演いただきました。対応事例の話では、実際の現場での対応をご紹介いただくことで、養護教諭としての対応の実際を知る機会となった。

山田裕介講師（滋賀県立大学 学生相談室）からは、自傷行為の特徴や対象者と遭遇した時の基本的な対応スキル、また、養護教諭（専門職）としての取るべき対応について、組織との連携もふまえてご教授いただいた。

時間の都合により、参加者とのディスカッション時間を取ることができず終了したが、個別質問対応を実施し、アンケート結果では『自傷行為をしている子を見つけたときにどう対応すべきか、（養護教諭として）どのような役割に回るべきなのか理解することができた』や『そのような子とかかわるにあたって、自身のメンタルケアも重要となることが知れてよかった』などの意見があった。

(専門講座受講者 4名 学部履修生 19名)

3) 卒後教育-公開講義

6件 12講義

① 「看護管理学」人材マネジメントーキャリア開発・支援についてー
(2024/6/11 76名)

2024年6月11日(火) 1・2限、近畿大学 IR/教育センター竹中喜一准教授を講師に招き、人間看護学部公開講義「テーマ：人材マネジメント 「キャリア開発・支援について」 ～人材育成で活用される理論とその活用～」を開催した。キャリア発達・開発、キャリアアンカー、人材育成で活用できる学習理論とその活用方法について分かりやすく説明され、人材育成やキャリア支援にも活用できる講義であった。講義は、グーグル・フォームを活用した双方向性のあるアクティブラーニングを交えながらの形式でなされた。

(公開講義への参加者：学部4回 65名、学外の県内看護職の方 11名)

② 「ホリスティックケア論」東洋医学療法 (2024/6/13・6/20 申込なし)

③ 「ホリスティックケア論」音楽療法のエッセンス

(2024/7/11 19名)

横井和美名誉教授を講師に、「看護に活かせる音楽療法のエッセンス」を開催した。音楽療法の歴史的背景、基礎知識、研究の動向、音楽療法の活用の実践例などを紹介していただいた。また、音楽療法「さざなみの会」スタッフとともに、音楽療法を体験して、音楽療法のもつ効果と看護に活かせる方略について考える機会となった。

(公開講義への参加者：学部生 13名、学内教職員 6名)

④ 「ホリスティックケア論」リンパ浮腫のケア

(2024/7/11：14名 7/18：13名)

人間看護学部3・4回生対象の「ホリスティックケア論」の「リンパ浮腫のケア・基礎編(7/11)」と「応用編(7/18)」を公開講義としました。「基礎編」では、リンパ浮腫とはなにか、リンパ浮腫の患者さんがどのような体験をされているのか、基本的なケアの方法、などを紹介した。「応用編」では、よくある「むくみ」へのケアとして、下肢静脈瘤の患者さん、終末期にある患者さん、一般女性や高齢者の「むくみ」、災害避難時の血栓予防、などを紹介した。そして、ラジオ体操をおこなったり、弾性ストッキングや弾性包帯などを体験してみたりした。

⑤ 「シミュレーション演習科目」見学

(6/5 緩和ケア演習1名 6/13 公衆衛生看護学演習なし 6/14 健康教育法演習なし
6/24・7/1 小児看護学演習なし 7/12 在宅看護学演習6名)

学内で実施されているシミュレーション演習科目を一部公開した。緩和ケア演習では、身体的苦痛のある人のアセスメントを行うために模擬患者を用いたシミュレーション教育を公開した。また、在宅看護学演習では ALS、認知症、心不全の模擬患者を用いたシミュレーション教育を公開した。それぞれの領域で、効果的なシミュレーション教育を行うための工夫がされていた。学内でのシミュレーション教育は年々レベルアップされており、他領域でのシミュレーション教育の実際を見学することで、それぞれの領域のシミュレーション教育が高度化されることが期待できた。6/5 緩和ケア演習1名 7/12 在宅看護学演習6名)

⑥ 「看護倫理」CARE for CAREGIVER

(2024/8/14：10名)

田村祐樹医師を講師に、「CARE for CAREGIVER」をテーマに、終末期患者に関わる医療職・介護職のストレスとその対処方法について紹介していただいた。

また、感情のメカニズムと自身の癖についてワークをとおして知り、ストレスがある中でも自分らしくいるための方略について考える機会となった。(公開講義への参加者：院生2名、県内看護職6名、介護職2名)

⑦ 「小児看護学」小児在宅療養と救急看護 (2025/1/10 申込なし)

4. 次年度にむけて

研修部門の企画および運営を振り返った。1)の講演部門においては、多くの看護職の参加のもと滋賀県の医療の現状と課題について学び、2040年に向けて各参加者の立場から滋賀県の看護について考える機会となった。2)の専門講座は、学内教員の協力を得ながら多岐にわたる内容の講座を開催するに至った。3)公開講座については、例年と同様、卒後教育の一環として位置づけて参加者を募り、多くの方に学生とともに学んでいただけた。

今年度の活動は全て対面での実施となり、参加者間、参加者と学内教員の親交を深める貴重な機会にもなった。次年度以降も、引き続き皆様からの要望を募り、県内の看護職者のさらなる質の向上に向けて講演や各種講座を展開していきたい。

C. 情報部門

1. 委員：本田可奈子教授

2. 活動の概要

1. 講演会・専門講座・共同研究募集の周知活動

本年度は、講演会、専門講座、共同研究募集についての周知を例年どおり以下の方法で実施した。

- ・チラシ・ポスターを紙媒体で発送し、関係機関への周知を行った。
- ・地域交流看護実践研究センターのホームページ上に、共同研究募集や講演会に関する記事を掲載し、地域の看護職者への情報提供を行った。

2. 活動報告書の作成

昨年度に引き続き、ホームページに掲載する活動報告書を作成した。これにより、センターの活動実績を閲覧できるよう整備した。

3. リーフレットの改訂

令和7年度版のリーフレットを作成した。掲載写真を更新し、令和6年度の活動の様子をよりイメージしやすい内容に改訂した。なお、令和6年度の卒業式において卒業生に配布を予定している。

4. オンライン会議システムの運用

本年度のオンライン会議システムの活用実績は2回であった。今後も円滑な運用を図り、さらなる活用を検討する。

3. 次年度にむけて

昨年度に実施した本センターに対するニーズ調査では、医療現場とセンターとの交流や、センターから医療現場への提案など、センターに対してより積極的な活動を求める意見がみられた。次年度は、Web環境をさらに活用し、医療現場との交流手段を模索し、実装していく予定である。

Ⅲ. 看護キャリア形成支援室の活動報告

1. 看護キャリア形成支援室の開設にあたって

看護キャリア形成支援室は、令和6年度より「滋賀県看護地域枠キャリア形成支援事業」の実施を受け、滋賀県立大学人間看護学部看護地域枠の学生における看護キャリア形成支援を継続的に行うために、人間看護学部地域交流看護実践研究センター内に設置された。

看護地域枠制度は、地域医療のリーダーとなるべき資質の高い看護職の養成を行うとともに、滋賀県内で養成された優秀な人材の県内定着を促進することを目的としている。これらの趣旨に基づき、本学における同制度の支援事業を担う部署として、看護キャリア形成支援室がその中核的な役割を果たすことになる。

本支援室の事業の目的は、看護地域枠の学生のみならず地域医療に関心をもつ学生およびその卒業生に対して、将来的に滋賀県の地域医療に貢献できるキャリアを明確に描けるような支援を実施することである。そのために様々なプログラムや学習機会の提供に努めていく。

2. 活動の概要

事業項目	実施日	事業内容
看護キャリア形成推奨科目支援 (看護英語実践)	令和6年12月9日(月) 14:50~16:20	看護英語実践では、異文化や外国語のコミュニケーション能力の必要性を学ぶために、タイのナレースワン大学に海外研修を推奨している。今年度の看護地域枠の学生は参加できなかったため外国人看護師の講演と交流会を開催した。
看護ボランティアの参加 「未来看護塾」での地域貢献活動	令和6年10月6日(土)ビバシティ彦根	未来看護塾主催で地域のショッピングモール(ビバシティ彦根)で「応援!!生き生き健康生活」として、ちびっこ広場、白衣着用体験、健康相談、ハンドマッサージ等を実施した。 学生40名(うち看護地域枠学生9名)、卒業生5名、湖東圏域看護師7名
	令和7年3月9日(日)	未来看護塾の活動の一環として、びわ湖マラソンに医療救護ボランティアとして参加し、ランナーの皆さんをサポートした。 学生40名(看護地域枠学生9名)が参加した。
滋賀県内の医療職との交流事業	令和6年10月26日(土)	地域交流看護実践研究センターの講演会後に、講演会テーマ「滋賀の医療の現状と課題」をもとに学生と看護師がグループディスカッションを行い、意見の交換を行った。看護職者13名、学生4名(看護地域枠学生1名)が参加した。

	令和7年2月 15日(土)14: 00~16:00	湖東圏域看護ネットが開催する全世代型地域包括ケアフォーラム「Do it ナラティブ 地域の看護職と“看護”を語ろう！」をテーマに地域で働く看護職の看護実践のナラティブで看護の知識や技術を仲間とシェアする交流会に参加した。 看護地域枠学生2名が参加した。
地域「里親」による医療学生等への支援事業への参加	令和7年3月 18日・19日	滋賀医療人育成協力機構 春の宿泊研修(高島市・湖西地域)に参加し、高島市・湖西地域の保健医療施設を複数見学したり、各施設や医療職の地域医療への取り組みについて学び、他大学の看護学生や医学生との交流を行った。 医学生16名、看護学生6名(うち本学2回生2名)であった。
専任職員との面談	令和6年9月 末~10月	地域交流看護実践研究センター内に看護キャリア形成支援室を設置し、看護地域枠学生と個別に専任職員と面談した。 学業面では前期の学習から後期授業科への取り組みについて、生活面では、経済・アルバイト状況、奨学金の種類等、地域活動では未来看護塾での参加状況や大学での活動状況について把握した。
看護地域枠学生の交流	令和7年2月 8日(土)	滋賀医科大学で開催された三大学看護地域枠学生の交流会と講演会に参加した。 看護地域枠学生8名、教職員3名

3. 次年度に向けて

次年度も本年度と同様に看護キャリア形成支援事業を継続して実施していくにあたり、年度当初に看護キャリア形成支援事業の日程を学生に周知するとともに、各事業ごとに学生の連絡係を設け、学生の主体性を育むことを目指していく。また、看護キャリア形成支援室は学生との面談だけでなく、学生と共にキャリア形成事業ができる情報提供および学生が気軽に利用できる場として環境を整えていく。

次年度は、看護地域枠制度の三大学交流会を本学で開催する予定であり、看護キャリア形成支援事業のさらなる充実を図っていく。